令和5年度総会並びに出

関係者など424名が参加した。 開催され、 閣市民ホールで4年ぶりに集合 並びに研修会がリンクモア平安 会等連絡協議会令和5年度総会 保健協力員や市町村

5月16日、青森県保健協力員

に感謝の意を表するとともに に対する関係各位の理解と協力

(五所川原市)

日頃の活動

主催者挨拶で成田啓子会長 は、

動

今年度は昨年度作成した『心を て理解を深めていただくため、 りの担い手としての役割につい 「保健協力員に改めて健康づく



**商森県保健協力員会等連絡協議会令和5年度総会並びに令和5年度保健協力員研修会** 

三村申吾青森県知事(ビデオメッセージ)

件の議案は全て原案どおり可決 子青森県在宅保健師の会会長 ンを掲げて活動することを確認 承認され、 議案審議に入り、上程された5 (山谷副会長代読)の祝辞後、 (ビデオメッセージ)と新井山洋 県統一活動スローガ 三村申吾青森県知事



在宅保健師の会 山谷千紗子副会長

版 述べた。 て一緒に頑張っていきたい」と 歌かす健 (検) の活用促進を図りながら、 診の受診率向上に向け (検) 診のススメ第2



①活動目標:健(検)診受診率アップ

スローガン:「あなたの声がけで 新たに健(検)診

受診者を3人増やそう!」

②活 動 目 標:組織強化を図り、保健協力員等の活動を

活性化させる。

スローガン:「仲間を増やして健やか力をアップしよう!」

の選任結果を報告し、 任期満了に伴う新役員 総会は終

## 地域住民と町の保健活動の 橋渡し役として

について紹介した。 の石田ふさ子会長が同町の活動 会では、外ヶ浜町保健協力員会 総会に引き続き行われた研修



活動発表者 石田ふさ子氏(外ヶ浜町)

していきたい」と意気込みを 健活動の橋渡し役として活動 のため、 での活動として 交換等の交流の様子を紹介し かけを行っていることと、 談」「通いの場」 「今後も地域住民の健康保持 外ヶ浜町では、 地域の方々と町の保 「地区の健康相 への参加呼び コロナ禍前 情報 ま

院医学研究科社会医学講座の 座長を務めた弘前大学大学

> てきている。 少 中 ・高齢化が進む中で、保健 力員の新しい担い手は減 路重之特任教授は「人口 減

活動に注目して、 なげることが重要である。 健協力員の活力ややりがいにつ けや勉強する機会を増やし、保 市町村がもっと保健協力員の 励ましの声が

力を合わせ頑張っていただきた ために、保健協力員と市町村が い」と激励した。 今後も青森県の健康づくりの



座長の中路重之氏

## 「心を動かす健(検)診のススメ 第2版』を持って受診勧奨

健活動推進専門員から、令和4 続い て、 本会の山口久美子保

> 年度に作成した『心を動かす健 域の保健活動に活用してほし 聴き方のポイント等)を紹介し 員の役割、心を動かす話し方・ 成の経緯と掲載内容(保健協力 下「ススメ本」)について、 い」と呼びかけた。 「ススメ本を勉強して、ぜひ地 診のススメ第2版』

## 大腸がん検診を 正しく受けよう

病院の松坂方士准教授が青森県 に講演した。 ト1位であることを踏まえて の大腸がん死亡率が全国ワース 「大腸がんについて」をテーマ 最後に、弘前大学医学部附属

択・精度管理の徹底・高い受 るための大腸がん検診とは 診率』の3つが揃う必要があ 『科学的根拠のある検診の選 同氏は「死亡率を低下させ

つ、保健協力員が受診勧奨を 検診の精度管理の向上に努めつ そのため、 市町村が大腸がん



講師の松坂方士氏

が期待できる」と述べた。 よって、大腸がんの死亡率低下 行って受診率を上げることに

受ける、の3つを地域の皆さん を受ける、③がんが発見され 受ける、②大腸がん検診で要精 た人は必ず医療機関で治療を 検になった人は必ず精密検査 として、①大腸がん検診を毎年 させる最も効果のある取り組み にもぜひ伝えてほしい」と強調 また「大腸がん死亡率を低下

どの感想が寄せられた。 員にも講演内容を伝えたい」な できた」「参加できなかった会 診の大切さを改めて学ぶことが 大変分かりやすく、大腸がん検 参加者からは「先生の講演は